日本のプロコーチ宣言第1号　榎本日出夫（日立戸塚コーチ）

私のバスケット狂書

その（9）

決心した「日本一」への挑戦

苦しさに一時は逃避の気持ちも

完璧なデータ作り開始

入れ替え戦を控えて、短い指導者生活ではありましたが、自分の持っていたもの、人から教えられたものすべてをはき出して得た結果が日本リーグ入りということで、これから先、自分は何を勉強し、何を目的としていったら良いのか、はたして今迄やってきたことが正しかったのかどうか、勝ったということだけを考えてみればたしかにそうかも知れないが、それを離れてもっと冷静に判断を下すならばどうなのだろうか……。

また、入れ替え戦迄のいろいろな練習、そして教訓等はどう役立てていけば良いのだろうか。日本リーグ入り迄という最初の気持ちから言えばこんな苦しいことから早く逃げた方が良いのではないか――、いろいろ悩みました。

しかし好きで入った道。その上、大好きな選手をおっぱり出して迄言っていく勇気は持ちあわせていないし、結局、日本一にはまちがいがあれば、ここで負った方向にいってしまうわけで、入れ替え戦でも何回かデータの取りちがいによるミスの為に練習してきたことがうまくいかないことがありました。

それでこれからは、もう少しえてみるとデータ取りの取り方に

のに仕上がる迄四年もかかってしまいました。しかし途中は、このデータに大分助けられたことも事実ですし、反面これをつけるマネージャーは、なれる迄大変な神経をつかったことも事実です。

このデータの取り方は、ゲームを見るがとくというのが条件で、ゲームの流れが一目でわかるのが特長なのですがそれだけに、つける方はじめは二人がかりでやっとなようでした。

もちろん人間ですから取りこぼし、主観の強いからのミス等がありますが、もう一度、V・TR・Rを見ながら私がつけ直しをするので、ほぼ満足なデータが残るようになりましたが、いづれにしても、手間のかかる仕事にはちがいありません。

しかし、これからレベルの高いところへ挑戦していく為には、もちろんこれだけでは勝てませんから、消去法的な考え方からもう一つ服皮してというよりも、肉づけをして、これでもか、これでもかという程、どのディームにもない特色のある強いものを創っていこうと考えたわけです。

また、データの持つ意味も大切ですが、それ以前に、やはり指導者の目指すレベルがどこにあるかということも問題ですから、（これは入れ替え戦で得た教訓ですが、コーチが日本リーグに入りたいというレベルで死にものぐるいでやれば、自然と選手にも通じ、取り組む姿勢が同じになってきた）多くの人達がここ迄は行くだろうというレベルから二段位上のレベルを目標にして練習をつくっていく決心をしました。

それで、その当時、D・K・B（第一勧銀）が2位の座にいたので、2位をおびやかすことを目標にはじめることにしました。しかし、どう考えてもこれは少し無理だったようですが、意識としてはそのくらいの高いレベルに挑戦することによっていろいろな意味でのレベル・アップをしたかったわけです。また、日本リーグに入って一息、という状態にもさせたくなかったことも要因のひとつですが……。

とにかく、私自身も一息入れる間もなく、一点につながる何かを創る為に、そして日本リーグではユニチカ山崎、D・K・Bしか取っていない、王座に向けて手をのばしはじめました。

〈続く〉

榎本日出夫

武蔵中学（東京）、武蔵高校（同）、武蔵大学（同）をそれぞれ卒業。現在、女子実業団チームの日立戸塚コーチ。昭和十六年七月七日生まれ〈現住所〉横浜市戸塚区舞岡町二三一ロー六電話〇四五（八二三）二七〇九番。

＝前回までのあらすじ＝

今から十年前のある夜、杉浜短大のコーチ依頼の電話を受け、引き受けたことが私の人生を変えた。その後、先輩や恩師のすすめもあり、日立戸塚のコーチをやるようになったが、この時、どうせやるならと「プロコーチ」の看板をあげ、バスケットで"メシ"を食う決心を固めた。日立戸塚をみるようになり、練習試合をしきりにすることにしたが、遠い所に出かけるため往復に時間がかかり、選手にも非常な負担となってきたために、ふと目についたマイクロバスを散々苦労した末にやっと手に入れた。そのうち、二月（46年）の入替戦にのぞむにあたり、まず戦う相手のすべてを知ることが肝心と指導者の競技歴や性格、指導歴などを綿密に調査して試合地の名古屋にのりこんだ。

まず予選の二試合に勝ち、強豪の日通を、やっとの思いで降し、いよいよ修羅場の決勝リーグとなり、シャンソン化粧品に快勝してあと二勝というところになったが、気のゆるみからかクラボー一枚方に敗れ、絶体絶命のピンチとなって東芝戦を迎えた。この試合、すてばちになって臨んだが案の上、苦戦となり、捨て身の早攻めを敢行したが、これが戸塚の身上である「直線オフェンス」の基盤となった。この東芝戦、やっとの思いでリードを保ったが終盤になってミスが連続、タイムアップ寸前までもつれにもつれたが、どうにか逃げ切った。

日本リーグ2位の一勧に"照準"

BASKET BALL IS MY LIFE